

---

# 原チャを盗んだ少年

キラ王国

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

原チャを盗んだ少年

### 【Nコード】

N1043F

### 【作者名】

キラ王国

### 【あらすじ】

原付を盗みいろいろなことを考え行動していく物語この話は実在するはなしですが所々名前や場所を変えてます是非よんでね

## 原チャを盗んだ1人の少年（前書き）

この話を読んで 腹が立つなどの たわごとは 抜かさないよう  
あらかじめ 伝えておきます

## 原チャを盗んだ1人の少年

今思えば馬鹿らしくなってくるな

アレは俺が高校1年生のときだったな

いつも通りに自転車で高校に向かう

俺の通学路は朝からよく暴走族もとおり　うゑーと思いながら暴走族が通り抜ける・・・実は俺今となってか　バリバリバイク乗りたくて、どうしようもなかったほどだった。

そう思いつつ　学校につき教室に入る　そして二時間目の休み時間に出来事は起きた

隣のクラスのヤマトが声をかけてきた

アンさゝお前バイクいるか？

・

・

・

俺は素で焦ったね

なにこいつ

いきなり。。。

ヤマトとは何回か話したことはあるが　特に親密な関係ではない。  
見た目もただのガリ勉だ。

そして、その時の俺のバイクに乗りたい！

と言う欲望がマックスになっていた。

俺は思わず ほしい！

そう答えてしまった

え？

お前マジでほしいの？

うん・・・

・・・

じゃあサンゴーでいいよ！

さんご？

3500円だよ

ああ

で売ってくれるの？

うん

マジで？

何処とめてあんの？

校舎の裏のマンションの駐車場だよ

そうやマトは原付で学校に登校していたのだ

いやゝ素で焦ったね

ガッコの教師とかにバレないの？

まあ細かいことはいいじゃん

それより もう鍵渡そうか？

ああ。オウ！

俺は初めてバイクの鍵を手にした

その時俺は思った

これで俺はやっとバイクにのれる〜〜

念願のバイクだ〜

俺は喜びをかくせない

そして学校が終わり

飛び上がって教室を出た

向かった先は、原付が置いてあるマンション

と思いきや まず家に帰った

やっぱり原付乗るのって

夜中がいいのかな？

昼間だと知り合いに見られてチクラレたり

白バイなんか追われても逃げれる自信ねえし

そして俺は夜0時ジャストに家を出ることにきめた 親が寝たのを

確認して こっそりしのびアシでそとにでる

実は俺の家かなりきびしい〜

自転車でマンションまで全力疾走した バイクに乗れるという喜びから自然と疲れが感じなかった俺

そして マンションについた

ど〜れだあ？

俺の相棒原付ちゃん  
どれだ だれだ

そして俺は原付を発見した

．．．

．．．．．

こ．．．こ

なな．．．．こ

俺は衝撃を受けてものを喋れない状態だった

目の前にあったのは ボロボロのカブだった

原付って言うからよ

zxとかディオトかかと思っていた俺  
しかしどうだろう

目の前にあるのは  
ボロイカブ1台

人生そんなに甘くなかった



握るとこひねってるとそのうちつくよ

ぶるる

ぶるるるるる

付いた

いや素でビビッたね

オンボロバイクなだけあって 音もオンボロだった……

そして俺はバイクにまたがる

おお動いた

ブレーキどこだ？

これが

よ～～～し

俺は張り切って

道路に飛び出した

初めは恐いから30キロ程度で走行

そのうちなれてきたから 思いって 限界まで スピードを出した  
が 思ったよりおせえ

やっぱカブだもんな

60キロが限度かあ～

そして俺は 調子にのって 暴走族気取りで蛇行運転をしてみたり  
した

このまま家に帰るのももつたいない  
そう思い俺は タダシ<引きこもり>の家についてバイクを自慢す  
ることにした

そして一応タダシに電話した  
もしもしタダシ？

あゝおれおれ

今原付あるんだ

お前に見せてやるよ！

バリバリかつこいいバイクなんだぜ

俺は人生2回目の嘘をついた

まじい バイクみせて

今お前ンチいくわ

分かった

今だれおるん？

いまは 暴走族の友だち 俺は人生3回目の嘘をついた

じゃあその人たちも くるの？

いやみんなもう帰るらしいから。。。

そつ。。。

なるべく早くきてね

わかった

俺はカブでタダシの家にむかった

ピンポンタダシはでてきた、後ろには アツシもいた

アツシとはタダシと一緒に暮らしている　タダシの友だちだ

おお　何だこのボロイバイク

もらっただ

へへへ

ちょっとふかしにイコウヤ

えへへ　2人の反応はいまいちだった

いまプヨプヨしてんだけど

じゃあ　お前イケよ

タダシ

えへ　俺やだよ

アツシはタダシを無理やりバイクにのせた

そして俺は前に乗って

走り出した

タダシは泣きそうだった　ムリもないだろう

無理やりバイクにのせられ　その上　俺が運転しているのだから

タダシは俺がはじめてバイクにのることは知っている

だから　後ろに乗るのが恐いのだろう

そして　俺は5分ほど

バイクでウロウロしていて 異変に気づいた

タダシが喋らない！

いや素であせったよ

不気味なほど 落ち込んでいたタダシ

そして俺はタダシがかわいそうになり タダシの家に帰ることにした  
それを口にしたとき

タダシの曇った顔からは 笑顔が溢れた

そして、帰宅！

え？お前らもう帰ってきたの？

まあ。。。うん

じゃあ俺乗らせて

久々に

アツシが自分から乗りたいと言い出した

うん いいよ

そして 俺とタダシは家でプヨプヨをすることになったと思ったのだが  
タダシが俺も行く！  
といいだしたのだ！

は？

ナにこいつ！

運転が上手いアツシだから 安心なのかよ！

俺は少し腹が立った

そして俺は寂しく1でお留守番

明日家に帰ったらなんて親に言おうかな

実は俺 夜中遊んではいけない むしろ無断で人の家に止まるなど  
言語道断

明日家に帰った時の言い訳を必死にかんがえること30分

よし！この言い訳に決めた！

まず親は 俺に 今までどこおったんやコラ  
って言うだろう

だからそれに対して俺は いや コンビニにお菓子買いに行っ  
てた！

馬鹿な俺はそれで いけると確信した

安心すると眠りについてた

すると

チャクメロが

タダシからだ」

ちなみにその時のチャクメロは オレンジレンジのアスタリスク

眠たい俺は それに出なかった

数分で切れた

そしてまた 鳴り出した

ん？

俺は 焦った

履歴を見ると18回タダシから 掛かっていることにきずいた

そしてまた 鳴り出した

俺は勇気を出して電話にでた

もしもし

あっもしもし

タダシ？

あの〜タダシ君の友だちかな？

明らかに大人の声だった

。。。交番の。。。です

終わった 全て終わった

俺は捕まるんだ  
そう思った

お前 バイクぬすんだろ！

このとき俺は 単刀直入に言いすぎだろこの警察！とおもった

俺は震えながら

ちゝゝ、ちちちち

違いますよ 取ってません

嘘つけえ

タダシがそういつてんだよ

どっちかが嘘ついてんだな

はあ？なんでタダシが？

俺の名前出してるし

何バラシテンダヨクそやろゝゝ

怒りと悲しみと絶望がおれを襲う

バイク乗っててつかまつたんなら 一人でパクってのりました！  
ってゆえばいいだろーが

何俺を巻き添えにしてんだよクソタダシ

警察>まあタダシにかわるわ

あっ もしもし

おい！タダシ

ごめん

お前がバイクパクって  
アツシがそのバイク勝手にのって 俺はバイクに乗ってないってこ  
とに してくれない？

こいつ友だちじゃねえ

素でそう思った

いやコイツツレ売ってその上自分 は安全権かよ  
最悪じゃん

そう思いつつも

ムリだよ ムリムリムリ

俺はムリを連発した

こっちは 退学高校いってるから退学とかいろいろ掛かってんだけ  
ど テメーは高校いってねーから 何にもなんネーけど

俺は退学になるんだぞ

俺は初めてタダシに気持ちをぶつけた

タダシ・・・・・・・・

・・・・・・・・

そして警察が出た

もしもし

とりあえず交番きてくれるかな

タダシが横にいるならどうせ俺の家の場所もおしえてんだろうーな

俺はどうすることもできなかった

そして 充電が切れ

電話が応答不能になった

俺は足がくがく心臓ばくばく でたたずんでいた

ヤバイ！

マジやばい

夢であってくれ！そう思った

退学になる

少年院行きになる

親にボこられる

マジやべえ

そう思いつつも俺は

何故か 交番にむかっていた

交番の中にはタダシがいた

取調べは5時間もつづいた

ふと俺の頭の中を何かがよぎった

以前俺はインターネットで 警察に捕まった時の逃げかた とかを  
しらべていたことがある

そして そこに書いてあった通りに言った

いや。ここ このバイクは 俺が自分の家の近く散歩してた  
ら 変な恐い人4人がやってきて これを。。。までもっていき！つ  
て脅されたんです

俺は信じてもらえないと 思ったが  
無駄にアガキまくった

そして

警察は信じてくれたのだ

俺は やった！  
そう思った

犯罪を犯した俺はむしろ被害者  
！

俺は

俺は

おれは

俺は無罪を

俺は無罪を勝ち取ったんだ！

俺は微笑んだ

ソシテ 取り調べが終わり

交番のドアを開ける

外からはすがすがしい  
朝の日差しが差し込んでいる

俺無事何事もなく  
家に帰ることが出来た

あとで親にボコボコにされたけど

今では まだタダシ君とはたまに遊んでいます 友だちじゃねえ  
けど

これを気に俺は思った

これからバイクを盗む時は 1人で ソシテ1人で乗る！

これは俺のプライドとして 心に深く刻んだ

俺は 成長したんだ

完

それから4年の月日がたち俺は一応高校を卒業した

バイクもたくさん盗んだ <ばれてないけど>

俺は19歳さすがにバイク窃盗はハズいな

そう思い俺は親に頼みことをした

おかあーさん

俺 原付免許とるわあ

その時

親の口からは衝撃の1コト

そんなモン10年早いわ

え？

10年？

俺19歳なんだけど

10年後って。。。。。。  
29歳じゃん

俺は素で焦ったよ

その時俺は 人生4回目の嘘をついた

んじゃ バイトするから 免許とらせてよ

親はあっさり オーけ〜

バイトをする気なんざ

サラサナない

これで警察の前を気軽に 運転できるし  
マジ快適安心で

バイクのれる~~~~

ソシテ 俺は

とうとう

免許をとり

バイクを購入

せつかくだから 中免をとった

俺は スカイウエーブを 購入した

いや素でビビッたよ

はえゝもん

いやだって 軽くひねっただけで 60キロだぜ？

原付の ベストスピードが 楽々だせるぜ

こりゃあはえゝ

俺は浮かれて 高速道路に入った

もちろん逝く当てはない

彼女でも作ってドライブしたいところなんだけど なぜか俺には女  
よりバイクのほうが似合っていた

高速をオリ

海のついた

そして 港町について

俺は ただユウユウと泳ぐ魚 港の漁師に飼われていると思われる  
猫 戯れるカモメたち 心が癒されるな

そう思い バイクを止め 1人砂浜に

ソシテ 海を眺めること12分 俺はそろそろ帰ろうかとおもい  
バイクのところへ

俺は 人生初めてパニクッタ  
バイクが

俺  
の

俺のバイク

俺の相棒

俺の

俺のバイクがないいいいいいいいい  
いいいいいいいいいいいいいいいい  
いいいいいいいい

くそお おお おお おお おお おお おお おお おお おお  
 おお おお おお おお おお おお おお おお おお おお  
 おお おお おお

港の漁師たちはびっくりしていた

俺は叫んだ

感情を言葉に表現した

うああああああああああああああ

その光景はもはや変態を通り越して不審者であつた

暴走族なんかより  
タチがわるい  
不審者だ

かつて4日 で スカイウェーブを盗まれた

あ？

鍵かけてるまんまだった

俺は 愕然とした

神を憎んだ

盗んだ奴を殺してえ

もし俺の中に神と言う存在があるのなら 神様殺してくださいそう願った

今までは バイクを取る側だったが

今じゃその逆 取られた奴の気持ちに同情する気はないが

なにとぞ くやしい

俺は 持っている携帯電話で警察に通報した

あゝもしもし

あの 俺のバイク 。 。 にとめてあったのが  
なくなってるんですけど

たぶん取られたんだとおもうんですけど

そんな感じで 一応警察に報告はしたものの

今の警察

ほとんど当てにならない!!

俺のバイク

どーせ4ヶ月くらいしたら 川かドブくらいで ボロボロになり捨てられてんだろーな

俺は自分が取っていたら！

と言う 相手の立場で考えた

その判断は案外的確なのかもしれない

大抵の場合 盗んだバイクの末路は

ガソリンがなくなるまで 使われ ガソリンがなくなれば 証拠隠滅で ドブや川ぐらいに捨てる

もしくは ガソリンを入れて長い間愛用する

もしくは そのバイクをばらばらにして オークションなどに売りつける

この3パターンが  
ポピュラーだろう

分解されて戻ってくるのか

ボロボロになってもどっってくるのか

それとも二度と もどってこないのかな

そう思いつつタクシーを呼び家にもどる

親に全てを話す

親は当然怒った

ソシテ俺は 反省した

バイトもしたが 長く続かなかった

その時俺に天気きた

ゲーセンでストットをしていたら 後ろから

ギャルが声をかけてきたのだ

ねえ 何歳？

高校生？

いろいろ聞いてきた

ち  
ちょ

コ

これって逆ナンパってやつか？

もしかして俺って  
かっこいい？

そう思い いえ19さいです！

へえゝ そうなんだ

バイク欲しい？

え？

俺の頭を何かがよぎった

このシュチュエーションどこかで

これはまさに 4年前の アノ2時間目の休み時間の ヤマトを思  
い出した

2度とああなるのはごめんだ

俺は バイクはいらない！  
といいました

そしたらギャルは どこかにいってしまった

なんだっ たんだろう

そして スロット再会！

ででんででんででで

チャクメロが鳴り出した

相変わらずアスタリスクだ

電話の相手は警察だった

バイクが見つかったとの報告の電話だったのだ

俺は飛び上がった

交番に置いてあるとのことだ 交番に急行

そして

そこには・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・変わり果てた俺のバイク

でもこれは

間違はなく俺のバイクだ

俺は感動して泣きそうになった

生まれて初めて警察に感謝した

バイクは真っ白になっていた 恐らく指紋を採取する粉だろう

家に帰りバイクを洗う

洗えば綺麗になるもんだ

俺は

俺は

またさらに成長した

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1043f/>

---

原チャを盗んだ少年

2010年10月17日07時33分発行